



平成 27 年 1 月 19 日

第 2 回オリンピック・パラリンピックに伴う

大規模施設対策等小委員会を開催

日本物流団体連合会は、1 月 16 日、千代田区平河町都道府県会館において第 2 回オリンピック・パラリンピックに伴う大規模施設対策等小委員会を開催した。

第 1 回小委員会の決定に基づき、建物への荷物搬出入の際に生じる問題点のアンケート調査を行ったが、その回答で示された問題点を議論すると共に、当小委員会における検討の目的や意義を整理し、確認を行った。

まず、会員から寄せられたアンケート調査結果が事務局より報告され、各物流事業者が荷物の搬出入の際に実感している、建物における物流についての課題が浮き彫りにされた。

建物における問題点については多くの事業者からの指摘は共通しており、主に以下の 4 点に集約される。

- ・建物出入り口の高さ制限により車両の通行に支障が出ており、積替が多くの場合生じていること
- ・荷捌き場が狭隘であること・駐車場の不足等により、建物の外での作業や二人乗務が必要となっていること
- ・貨物用エレベーターが無いか台数が不足しており、長い手待ち時間が発生すること
- ・建物内の搬出入経路が不明確であったり人の導線と交錯する機会が多く、支障が生じていること

続いて事例紹介として、佐川急便(株)より東京スカイツリーを基幹とした大規模商業施設「東京ソラマチ」における館内物流の先進的な取り組みについて説明が行われ、外部倉庫に一旦集約してから荷物の搬入を行うという、施設周辺の渋滞を緩和する工夫等が披露された。

また、本件検討の意義については、次のように確認された。

- ・大規模施設の建設に当たって行う物流への配慮は、建物内における円滑な物流を実現するだけでなく、建物の所有者・運営者、建物の利用者、地域社会にも利益をもたらす環境を作り出し、社会全体に貢献するものである。

最後に、今後の予定について議論が行われ、問題状況や本件検討の意義を踏まえ、年度内に大規模施設建築手順のあり方等について中間報告をまとめ、発信していくことを目指すこととなった。



委員会全景



挨拶する大庭理事長



司会を務める座長、苦瀬教授



事例紹介を行う佐川急便(株)白井氏

以上
事務局：笹山